



国際子ども図書館 学校図書館セット貸出し 世界を知るセット 小学校低学年向 資料解題

この冊子は、学校図書館セット貸出しに含まれる本の解説です。
本の紹介、展示の作成や、学校図書館での選書などにご利用下さい。

No	書名	出版社	出版年	請求記号	関連国・地域
1	世界がわかるこっきのえほん	学研教育出版	2013	Y1-N13-L80	—
2	せかいのひとびと	評論社	1982	Y1-462	—
3	まるいちきゅうのまるいちにち	童話屋	1986	Y18-1755	—
4	はがぬけたらどうするの?	フレーベル館	1999	Y11-M99-405	—
5	バオバブのきのうえで	福音館書店	2005	Y18-N05-H341	マリ
6	おばあちゃんにおみやげを	偕成社	2000	Y18-N00-404	ナイジェリア
7	もどってきたガバタぼん	福音館書店	1997	Y18-M98-160	エチオピア
8	かしこいカメのおはなし	ポプラ社	2000	Y18-N01-7	タンザニア
9	あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま	福音館書店	1999	Y18-M99-558	韓国
10	こいぬのうんち	平凡社	2002	Y18-N02-274	韓国
11	ほしになつたりゅうのきば	福音館書店	1976	Y17-5037	中国
12	しーっ!ぼうやがおひるねしているの	偕成社	1998	Y18-M99-172	タイ
13	ブンクマインチャ	福音館書店	1971	Y17-3564	ネパール
14	ぞうのマハギリ	グランママ社	2002	Y18-N02-206	インド
15	महागिरि (ヒンディー語) (ぞうのマハギリ)	—	—	Y17-AZ3532	インド
16	きつねのホイティ	福音館書店	1994	Y18-8905	スリランカ
17	せかいいちうつくしいぼくの村	ポプラ社	1995	Y18-11078	アフガニスタン
18	かもさんおとおり	福音館書店	1965	Y7-240	アメリカ
19	Make way for ducklings (英語) (かもさんおとおり)	Viking Press	1941	Y19-A840	アメリカ
20	ふたりはともだち	文化出版局	1972	Y17-3887	アメリカ
21	太陽へとぶ矢	ほるぶ出版	1976	Y17-5250	アメリカ
22	A mountain alphabet (英語)	Tundra Books	1996	Y17-A9	カナダ
23	うさぎのみみはなぜながい	福音館書店	1962	児726-Ki287u	メキシコ
24	クリスマスまであと九日	富山房	1974	Y18-N04-H157	メキシコ
25	ミラクルバナナ	学習研究社	2001	Y18-N01-100	ハイチ
26	なぞなぞ100このほん	福音館書店	1994	Y12-3149	ロシア
27	おおきなかぶ	福音館書店	1966	Y18-M98-330	ロシア
28	Penka (ロシア語) (おおきなかぶ)	Oniks	2000	Y17-B2382	ロシア
29	まほうの馬	岩波書店	1964	Y7-76	ロシア
30	てぶくる	福音館書店	1965	Y17-62	ウクライナ
31	ベレのあたらしいふく	福音館書店	1976	Y17-4693	スウェーデン
32	しずくのぼうけん	福音館書店	1969	Y17-514	ポーランド
33	せかいにパーレただひとり	偕成社	1978	Y7-6863	デンマーク
34	金のがちょうのほん	福音館書店	1980	Y7-8497	イギリス
35	神の道化師	ほるぶ出版	1980	Y17-7397	イタリア
36	Nella nebbia di Milano (イタリア語)	Corraini	1996	Y17-B2443	イタリア
37	げんきなマドレーヌ	福音館書店	1972	Y17-3889	フランス
38	Dix grenouilles (フランス語)	Gallimard jeunesse	1997	Y17-A5041	フランス
39	ねむりひめ	福音館書店	1963	児943-cG86nS	ドイツ
40	ねっこぼっこ	平凡社	2005	Y18-N05-H262	ドイツ
41	Etwas von den Wurzelkindern (ドイツ語) (ねっこぼっこ)	arsEd	1990	Y17-A7755	ドイツ
42	ウルスリのすず	岩波書店	1973	Y17-4136	スイス
43	天からふってきたお金	岩波書店	1964	Y7-79	トルコ
44	もぐらとずぼん	福音館書店	1967	Y17-276	チェコ
45	わたしのパーニー-いつもいっしょ	のら書店	1997	Y18-12841	ニュージーランド



世界がわかるこっきのえほん 改訂版

ぼここうぼう え
学研教育出版 2013年

丸、星、三角など国旗のデザインに注目して、55か国の国旗とデザインに込められた意味を、平易な説明とイラストで紹介する。「せかいのいろいろなこっき」の章では、アジアなどのエリア別に196か国・地域の国旗を紹介している。世界の国々に興味を持たせるきっかけ作りとして、子どもたちが、国旗から国名を当てるクイズを作っても楽しい。見返しに世界地図と索引付。

せかいのひとびと

ピーター・スピーアー えとぶん；松川真弓 やく
評論社 1982年

大型絵本の見開きいっぱい、地球上の様々な場所で様々な生活が繰り広げられている様子が緻密に描きこまれており圧巻である。子どもたちは、世界の人々の驚くばかりの多様性に圧倒されることであろう。

まるいちきゅうのまるいちにち

エリック・カール ほか 作；安野光雅 編
童話屋 1986年

世界8カ国の絵本作家たちが、グリニッジ標準時1月1日午前0時から丸一日間の、8カ国の子どもたちそれぞれの様子を描いた絵本。見開き2ページが8つの枠に区切られており、同時刻の子どもたちの様子を一度に見比べてみるができる。日本の元日の朝9時に、他の国の子どもたちはいったい何をしているだろう。昼夜も違えば季節も違う、地球上のまだ見ぬ国々。地球儀などで実際にその国の位置を確かめながら読むと、より理解が深まるだろう。

はがぬけたらどうするの？

セルビー・ビーラー 文；ブライアン・カラス 絵；こだまともこ 訳
石川烈 監修
フレーベル館 1999年

乳歯が抜けた時、抜けた歯をどうするか。世界中から集めた、66の言い伝えや風習を紹介した絵本。巻末には歯のことが分かる知識のページがある。歯が生え変わる時期の子どもたちが異文化に触れるのに最適である。

バオバブのきのうえで

ジェリ・ババ・シソコ 語り；みやこ・みな 再話；ラミン・ドロ 絵
福音館書店 2005年

《マリ》アフリカ・マリの昔話。みなしごになった赤ん坊が、村人たちの手によって森に捨てられ、森のけものたちに育てられる。やがて成長した男の子が、自分を捨てた村には雨の恵みがもたらされないようにと願い歌ったため、村では作物がとれなくなり、みな困り果ててしまう。語りのジェリ・ババ・シソコは、マリの職業的語り部の1人。ジェリとは、楽器や歌にのせて部族の歴史などを口承で語り継ぐ伝統的な世襲の職業。挿絵もマリ人による。

おばあちゃんにおみやげを

イフェオマ・オニエフル 作・写真；さくまゆみこ 訳
偕成社 2000年

《ナイジェリア》ナイジェリア南部のイバシ村に住むイガラ人の男の子エメカが、おばあちゃんにあげるお土産を探しながら、おばあちゃんと10人のいとこたちに会いに行くまでを描いた、やさしい数の本。文章は簡潔そのもの、写真は大きく見やすい。ナイジェリアの子どもたちの様子や、人々の暮らしの道具などが紹介されており、ナイジェリアを身近に感じることのできる1冊。

もどってきたガバタばん

渡辺茂男 やく；ギルマ・ベラチョウ え
福音館書店 1997年

《エチオピア》エチオピアの昔話。「ガバタばん」とは、ゲームに使う木製の将棋盤のこと。男の子のお気に入りのガバタばんを、男たちが薪の代わりに燃やしてしまう。代わりに男の子はナイフをもらう。その後、ナイフがやりになり、やりが馬になり、そしてめぐりめぐって再びガバタばんになるまで、昔話特有の繰り返しの表現でテンポよく語られていく。昔話集『山の上の火』に収められている「しょうぎばん」を絵本化したもの。ガバタばんを使った遊びの様子がわかりやすく挿絵に描かれている。

かしこいカメのおはなし

フランチェスカ・マーティン さく；福本友美子 やく
ポプラ社 2000年

《タンザニア》タンザニア南部で長い間語り継がれてきた昔話。ニャサ湖のほとりで、象とカバが力自慢の大騒ぎ。ところが、小さいけれどもかしこいカメが、見事に騒ぎを収めてしまう。文章のところどころにタンザニアで使われているスワヒリ語の音が散りばめられ、現地の画家が描いた鮮やかな挿絵が印象的な絵本。

あかてぬぐいのおくさんと7にんのなかま

イ・ヨンギョン ぶん・え；かみやにじ 訳
福音館書店 1999年

《韓国》昔、お針のとても上手な奥さんがいた。ある日おくさんがうたた寝をしていると、ものさし、はさみ、針、糸など7つの裁縫道具が次々と現われ、自分こそ一番役に立つと自慢を始める。韓国の民族衣装チマチョゴリを着たものさしふじんやはさみおじょうさんなど個性的でユーモラス。韓国の古い物語を材料にした絵本。

こいぬのうんち

クオン・ジョンセン 文；チョン・スングク 絵；ピョン・キジャ 訳
平凡社 2000年

《韓国》こいぬのうんちは、自分が汚くて役立たずだと、悲しくなる。だがたんぽぽの芽に、「あなたがこやしになってくれれば私はきれいな花を咲かせることができる」といわれる。こいぬのうんちは、大地に染み込み、やがてタンポポはきれいな花を咲かせる。本書は韓国の第1回キリスト教児童文学賞受賞作を絵本に書きなおしたもの。

ほしになったりゅうのきば

君島久子 再話；赤羽末吉 画
福音館書店 1976年

《中国》昔話絵本。兄弟の龍が争ってできた天の裂け目を繕うため、石から生まれた勇敢な若者サンは旅に出る。99の川を渡り、99の山を踏み越えて、緑の老人の助言に従い、ウリュウ山のクマ王の3人娘を探しに行く。クマ王の末娘の白ひめとサンは、龍の牙を釘に、角を鎚にして、天を繕う。

しーっ！ぼうやがおひるねしているの

ミンフォン・ホ 作；ホリー・ミード 絵；安井清子 訳
偕成社 1998年

《タイ》ぼうやを寝かしつけるお母さんは小さな蚊やニワトリなどの動物たちに呼びかける。「しずかにして。ぼうやがおひるねしているの」。タイの人たちの耳がとらえた、動物の鳴き声の表現が興味深い。のどかなタイの農村の風景が味わえる絵本。

プンクマインチャ：ネパール民話

大塚勇三 再話；秋野亥左 画

福音館書店 1992年

《ネパール》心優しい女の子プンクは、いじわるな継母とその娘チャンパと暮らしていた。お腹をすかせたプンクに、ドーン・チョーレチャという二つ頭の不思議な山羊が食べ物をくれるが、それを継母に見つかってしまう。山羊は殺されるが、プンクが骨を牧場に埋めると…。ブラチスラバ世界絵本原画展金杯を受賞したネパール民話の絵本。

ぞうのマハギリ

ケシャブ・シャンカール・ピライ 再話；プラク・ビスワス 絵

みやちとしこ 訳

グランまま社 2002年

महागिरि (ヒンディー語)

《インド》インドの昔話絵本。普段は象使いに従順でとてもおとなしい象のマハギリが、ある日突然逆らいはじめる。けれども、それは小さな猫の命を救うためだった。再話はインドの神話、昔話、創作絵本、児童文学の普及に努めた高名な政治漫画家シャンカール、挿絵はシャンカールの弟子プラク・ビスワスによる。1965年の初版以来、英語、ヒンディー語、カンナダ語、マラーティー語、タミル語など、インドの多くの言語で版を重ね、インドの古典絵本として親しまれている。

きつねのホイティ

シビル・ウェッタシンハ さく；まつおかきょうこ やく

福音館書店 1994年

《スリランカ》『かさどろぼう』で第3回野間国際絵本原画コンクール佳作を受賞した、スリランカの絵本作家ウェッタシンハの創作絵本。きつねのホイティは、干してある洗濯物をちょっぴり拝借して人間になりすまし、親切な村人の家でおいしい夕飯にありつこうと思いつく。けれども村のおかみさんたちのほうがホイティよりも一枚うわ手で…。現地の作家による衣、食、住の描写が興味深く、とりわけ、スリランカやインドの民族衣装サリーの色彩が目眩しい。

せかいいちうつくしいぼくの村

小林豊 作・絵

ポプラ社 1995年

《アフガニスタン》少年ヤモは、さくらんぼやすももが実る美しい村に住んでいる。お兄さんが戦争に行ってしまったので、ヤモは家の仕事を手伝い、果物を売るために町へ出かける。初めて見る町や市場の活気に驚きつつ、一日を過ごす。アフガニスタンの村を舞台に、少年の成長と村の生活を描いた絵本。著者がアフガニスタンを旅した時に、実際に訪れた村をモデルとしている。

かもさんおとおり

ロバート・マックロスキー 文・絵；わたなべしげお 訳

福音館書店 1965年

Make way for ducklings (英語) かもさんおとおり

By Robert McCloskey

Viking Press 1969

《アメリカ》かものマラードおくさんが、こがもたちを連れて、ボストンの町を練り歩く。かもの行列のために交通整理を買って出る警察官、温かく見守る町の人々など、日常のささやかな出来事を楽しむおおらかな姿が小気味良い。1942年コルデコット賞受賞。こがもたちの英語の名前が、頭文字をアルファベット順など、英語ならではの言葉遊びが面白い。

ふたりはともだち

アーノルド・ローベル 作；三木卓 訳

文化出版局 1972年

《アメリカ》かえるくんとがまくんのお話が5つ入っている。どれも2人の友情がほのぼのと描かれ、低学年から大人まで、心温まるお話を楽しむことができる。『おてがみ』は教科書にも載っているお話。1971年コルデコット賞次席。ほかに『ふたりはいつも』『ふたりはきょうも』とニューベリー賞を受賞した『ふたりはいつしょ』がある。

太陽へとぶ矢

ジェラルド・マクダーモット さく；じんぐうてるお やく

ほるぷ出版 1976年

《アメリカ》太陽神の放った命の矢に射ぬかれた娘が、男の子を身ごもる。成長した男の子は、まだ見ぬ父を求めて太陽へと向かう。そして、父が課した数々の試練を乗り越え、大いなる力を得て、少年は再び大地へと帰っていく。アメリカ先住民に伝わる物語を、デザイナーでもあるマクダーモットが独特の挿絵で絵本化。1975年コルデコット賞受賞作。

A mountain alphabet (英語) 山のアルファベット

Text by Margriet Ruurs Art by Andrew Kiss

Tundra Books 1996

《カナダ》カナダのアルファベット絵本。アルファベット全26文字を頭文字とする事物が描かれているほか、絵の中に文字の形が隠されており、文字探しを楽しむことができる。アメリカ大陸の壮大な自然や人々の生活の様子、多様な動植物など、絵でじっくりと味わってもらいたい。

うさぎのみみはなぜながい

北川民次 ぶんとえ

福音館書店 1962年

《メキシコ》アステカの昔話。小さなうさぎが、神様に体を大きくして欲しいと願った。すると神様は、三匹の動物の皮を手に入れたら叶えてやるという。うさぎは、知恵を絞り皮を持っていくが、神様は利口なうさぎの耳を持って大地に放り投げた。それでうさぎの耳が長くなったという由来譚。地味な色彩の絵だが、遠くからでも良く見え、集団の読み聞かせにも向く。作者の北川民治は、1914年に渡米後、メキシコで長年過ごし、帰国後に絵画を発表し、画家としての地位を確立した。

クリスマスまであと九日

マリー・ホール・エッツ, アウロラ・ラバスティダ 作

マリー・ホール・エッツ 画 たなべいすず 訳

富山房 1974年

《メキシコ》先住民の文化とスペイン移民の文化が混じり合い、独特の文化を形作っているメキシコを舞台にした絵本。「ポサダ」とは、クリスマス前の9日間に毎晩開かれる特別なパーティーのこと。小さな女の子セシが、生まれて初めてポサダをしてもらえることになり、その日を心待ちにする様子や、パーティーの準備のためにマーケットに行く様子などが丁寧に描かれている。

ミラクルバナナ

ジョルジュ・キャストラ, ロドニィ・サン・エロワ 作

ルイジアヌ・サン・フルラン 絵；加古里子 文

学習研究社 2001年

《ハイチ》バナナの紙でできた絵本。バナナは、東南アジアや南米など、暑い地域で育つ多年生草本、つまり「草」である。茎の丈は高いもので10mに達するが、収穫後は切り倒され、捨てられる運命にある。そんなバナナの茎を原料に、南米のハイチと日本の共同プロジェクトにより、古代和紙の製法を用いて、この本のバナナ紙は作られた。ぜひその感触を楽しんでもらいたい。

なぞなぞ 100 このほん

M.ブラートフ 採集；松谷さやか 編・訳；M.ミトゥーリチ 絵
福音館書店 1994年

《ロシア》「うまれたときからひげがはえているのはだれ？」、答えは「ねこ」。旧ソ連の昔話研究者が編んだ本より、100個のなぞなぞを選び、ロシアの代表的な画家であるミトゥーリチがイラストを描いた絵本。少し難しいなぞなぞもあるが、イラストが大きなヒントとなっている。答えはページの端に逆さまに記されている。巻末にはどの民族のなぞなぞかを示した一覧がある。

おおきなかぶ

A.トルストイ 再話；内田莉莎子 訳；佐藤忠良 画
福音館書店 1966年

Репка (ロシア語) おおきなかぶ

2000

《ロシア》とてつもなく大きなかぶを皆で力を合わせて引き抜くというシンプルな筋立てのロシアの昔話絵本。日本の小学校の国語教科書にも登場する。「うんとこしょ どっこいしょ」のリズミカルなかけ声とともに、ロシアのお話が楽しめる1冊。

日本の子どもたちにも広く親しまれているロシア昔話のロシア語版絵本。本書は2000年頃にロシアで流通していたもの。挿絵を日本語版と見比べたり、キリル文字の独特な形に触れたり、いろいろな楽しみ方ができる。

まほうの馬

A.トルストイ, M.ブラートフ 文；高杉一郎, 田中泰子 訳
E.ラチョフ 絵
岩波書店 1964年

《ロシア》「まほうの馬」のほか、ロシアの伝統的な昔話全12話が収録された昔話集。繰り返しのリズムに富んだ骨太な再話文は、かつて肉声で語られていたことを彷彿（ほうふつ）させ、読み聞かせに向く。挿絵には、絵本『てぶくろ』で親しまれているラチョフが、ロシアの民族衣装をまとった動物を生き生きと描いており、文字の多い本が苦手な子どもにも比較的親しみやすくなっている。

てぶくろ

エフゲーニ・M.ラチョフ 絵；うちだりさこ 訳
福音館書店 1965年

《ウクライナ》1965年に日本で翻訳出版されて以来、多くの子どもたちから愛され続けているウクライナの昔話絵本。おじさんが落としていった片方だけの手袋に、動物たちが次々と住みついていくというシンプルなお話。降り積もる雪や空の色の移り変わりが示す時の経過、手袋が少しずつ住み心地よくなるように工夫されていく様子など、絵のすみずみまでじっくりと楽しんでもらいたい。柔らかな温もりのあるラチョフの絵からは、動物たちの毛皮の感触まで伝わってきそうである。

ペレのあたらしいふく

エルサ・ベスコフ さく・え；おのでらゆりこ やく
福音館書店 1976年

《スウェーデン》100年ほど前に生まれ、現在も読み継がれているスウェーデンの古典的絵本。ペレは、羊の毛を刈り取り、それで新しく自分の服を作ることにする。ペレが様々なお手伝いをするかわりに、刈り取った毛を梳いてもらったり、梳いてもらった毛を糸に紡いでもらったり、その糸を布に織ってもらったりと、羊の毛はだんだんと服の形に近づいていく。昔ながらの丁寧な手仕事の様子が、暖かみのある絵で丹念に描かれた絵本。

しずくのぼうけん

マリア・テルリコフスカ さく；うちだりさこ やく；ボフダン・ブテンコ え
福音館書店 1969年

《ポーランド》村のおばさんのバケツから、びしゃんと水がひとしずく飛び出して旅にでた。一滴の水の会おう冒険の旅を、シンプルなフォルムと色づかいで描いた、水の三態について語る科学絵本。一粒の水滴が雲・雨・霜・川・水道さまざまな形に姿を変え循環していく様子は、日常にある科学の不思議を感じ取るきっかけになる。リズムカルな訳文は読み聞かせにも向く。理科の導入にも適している。

せかいにパーレただひとり

イェンス・シースゴール さく；アルネ・ウンガーマン え；やまのべいすず やく
偕成社 1978年

《デンマーク》ある朝目を覚ますと、パーレは世界でただ1人になっていた。お父さんもお母さんも、町の人もいない。パーレはお店のお菓子を食べたり、バスを運転したり、やりたい放題。でも1人ではつまらなくなってしまう。

金のがちょうのほん

レズリー・ブルック 文・画；瀬田貞二、松瀬七織 訳
福音館書店 1980年

《イギリス》表題作ほか「三びきのくま」、「三びきのこぶた」など、日本でもよく知られているイギリスの昔話4話が収録されている。原書の初版は今から約100年前の1904年。イギリス古典絵本の流れをくむブルックの絵には、イギリスの風俗や画家のさりげないユーモアが随所に盛り込まれている。翻訳は、絵本『三びきのやぎのがらがらどん』や「ナルニア国シリーズ」など数多くの優れた海外作品を日本に翻訳紹介した瀬田貞二と、松瀬七織。

神の道化師

トミー・デ・パオラ さく；ゆあさふみえ やく
ほるぷ出版 1980年

《イタリア》何でもお手玉のように回せる少年ジョバンニは、旅芸人の一座に入り、得意の芸で大勢の人々を喜ばせた。しかしやがて、年老いたジョバンニの芸に人々は足を止めなくなった。ジョバンニはクリスマスの日にふるさとの教会に辿り着き、イエス像の前でもう一度芸を披露する。素朴なキリスト教信仰を下敷きに、道化師の一生を描くイタリアを舞台にした昔話。

Nella nebbia di Milano (イタリア語) きりのなかのサーカス

Bruno Munari

Corraini 1996, c1968

《イタリア》デザイナーとしても著名なブルーノ・ムナリの絵本。大胆なデザインの絵と、おしゃれな仕掛けが楽しめる。半透明の紙で霧のミラノの街が表現されており、次のページが透けて見える仕掛けもある。イタリアの絵本。『きりのなかのサーカス』として日本語訳もある。

げんきなマドレーヌ

ルドウィッヒ・ベームルマンズ 作・画；瀬田貞二 訳
福音館書店 1972年

《フランス》《アメリカ》フランス・パリの古い寄宿舎に住む12人の女の子の愉快なお話。なかでも一番小さなマドレーヌはとてもお転婆で、ねずみも怖くないし、スキーもスケートも得意です。そんなマドレーヌに異変が起こります。お話の中にパリの名所が描かれている。アメリカ生まれの絵本。

Dix grenouilles (フランス語) 10匹のカエル

Quentin Blake

Gallmard jeunesse 1997年

《フランス》国際アンデルセン賞受賞作家クエンティン・ブレイクによる数の絵本。英語とはまた違ったフランス語での数の数え方を楽しめる。

1 : 1 羽のカラス、2 : 2 匹のヤギ、3 : 3 匹の犬、4 : 4 匹の猫、5 : 5 匹のネズミ、6 : 6 匹の魚、7 : 7 羽のカモ、8 : 8 羽のメンドリ、9 : 9 匹のネズミ、10 : 10 匹のカエル、20 : 20 羽のスズメ、100 : 100 匹の蜂

ねむりひめ

グリム 著；フェリクス・ホフマン 絵；せたていじ 訳

福音館書店 1965年

《ドイツ》グリム童話の有名な昔語を、スイスの画家ホフマンが繊細なタッチと良く練られた構図で描く。王さまが小さな姫を守る姿の表紙絵と、錘(つむ)が焼かれる場面とを比較したり、いばらの生い茂る城の絵から塔の中に隠れた姿を探したりするのも面白い。階段状に進んでいくと、百年も眠り続けている姫に辿り着く王子の姿など、物語を読み解く絵本としても興味深い。大型絵本なので、読み聞かせにも向く。

ねっこぼっこ

ジビュレ・フォン・オルファース 作；秦理絵子 訳

平凡社 2005年

Etwas von den Wurzelkindern (ドイツ語) ねっこぼっこ

von Sibylle v. Olfers

arsEd c1990

《ドイツ》1906年の出版以来、1世紀以上に渡り子どもたちから愛され続けてきたドイツの古典絵本。ねっこぼっこ(直訳すると「根っこの子どもたち」)は、春の訪れと共に土の中で目覚め、色とりどりの花の服を身にまとい、外の世界へと出て行く。輝かしい夏を謳歌し、やがて木枯らしが吹き始めると、大地の母さんのふところに戻り、再び春が廻り来るまでの間、土の中で安らかに眠る。擬人化された植物の四季に、喜びと安らぎに彩られた幸せな子どもの日々のイメージが重なる。詩的で美しい訳文は、音読することによって耳にいつそう心地よく響く。作者のオルファースは1916年に34歳の若さでこの世を去ったが、彼女のどの作品もドイツ古典絵本の傑作として今も読み継がれている。

『ねっこぼっこ』の原書。ドイツ語には基本のアルファベット26文字の他に、ウムラウト表記(Ä, Ö, Ü)やエスツェット(B)など、ドイツ語特有の文字が用いられている。日本語版の『ねっこぼっこ』とセットで、日本語文と比較したり、ドイツ語文の雰囲気味わうなど、気軽に楽しんでもらいたい。

ウルスリのすず

ゼリーナ・ヘンツ 文；アロワ・カリジェ 絵；大塚勇三 訳

岩波書店 1992年

《スイス》春の初めのお祭り「鈴行列」に参加する、山の子ウルスリのお話。絵本の舞台となっているのはスイス、エンガディン地方グアルダ村の自然と子どもたちの様子が生き生きと描かれている。グアルダに住む詩人、ゼリーナ・ヘンツが作った物語に、カリジェが挿絵を描く形で『ウルスリのすず』、『フルリーナと山の鳥』、『大雪』が発表された。カリジェは『ナシの木とシラカバとメギの木』で1966年国際アンデルセン賞画家賞を受賞している。

天からふってきたお金

アリス・ケルジー 文；岡村和子 訳；和田誠 絵

岩波書店 1964年

《トルコ》トルコに伝わる「ホジャ」の楽しいお話。その昔、実在していたといわれるナスレディン・ホジャは、イスラーム文化圏やトルコ、トルコ系民族の間では、笑い話の主人公として有名。知恵がまわるかと思うと、ちょっと間の抜けたところもあるホジャのとんち話全16話を収録。著者のアリス・ケルジーは、トルコ在住経験のあるアメリカの作家で、トルコ人たちからホジャの話聞き本書を執筆

したという。

もぐらとずぼん

エドアルド・ペチシカ 文；ズデネック・ミレル 絵；うちだりさこ 訳
福音館書店 1973年

《チェコ》もぐらが「大きなポケットがついた青いずぼんがほしい」と一途に思っていると、亜麻草が「いうとおりにすればできる」と教えてくれた。もぐらが、亜麻を育てると、蛙が亜麻の茎を水に浸し、コウノトリが茎を折り曲げ、ハリネズミが梳き、蜘蛛が糸を紡いでくれた。青いコケモモが糸を染め、蟻が布を織り、エビガニ（ザリガニ）が布を裁ち、ヨシキリが布を縫ってくれ、青いずぼんが完成する。文章が多いので、読みきかせより、じっくり読む方が向く。

わたしのバーニーいつもいっしょ

ドロシー・バトラー さく；エリザベス・フラワー え；ももゆりこ やく
のら書店 1997年

《ニュージーランド》女の子とくまのぬいぐるみバーニーの話。買い物に行くときも、遊びに行くときも、庭仕事をするときも、ベッドに行くときも、女の子は茶色のくまのバーニーと一緒に。でも来年か再来年、学校に行くときは…。それぞれの場所へ行く際の持ちものが、ひとつずつ丁寧に描かれている。